

○シイタケとマツタケの種小名と分布 (小林義雄) Yosio KOBAYASI: Specific epithet and distribution of *Lentinus edodes* and *Tricholoma caligatum*

シイタケの学名は *Lentinus edodes* (Berk.) Singer であるが、この種小名 *edodes* の由来については 2 通りの説がある。その一は“江戸”に由来するとの説である。シイタケの標本を得た外国人はチャレンジャーの乗組員で、明治 8 年 (1875) 4 月 11 日に入港し、暫らくの間東京と横浜に滞在して居た。この間に東京 (当時も江戸の名が残っていた) の食品店で購入したものと思われる。今一つにはギリシヤ語原説がある。エドデスと発音の似ている語に *Edeotos* があり、食用に供せられるという意味があるので正に語原に相応しい。しかしこれら説のうちの何れが本当のものであるかは原文に記して居らないので断定出来ない。つぎにシイタケの分布について記すと、戦争中にセレベス島から報告があり、私はボルネオ島のキナバル山中腹で発見し、次いでニューギニア島でも採り、先年はネパールのカトマンズ附近と北東アフリカ、ニュージーランドからも報告が続いた。本種はむしろ東南アジアを中心とする熱帯圏が分布の中心であり、古い時代に我国や朝鮮半島に移行したものと思われる。

マツタケの学名は *Tricholoma matsutake* (S. Ito et Imai) Singer が今まで用いられて来たが、永年親しんだ *matsutake* という種小名に別れねばならぬ時が来た。ヨーロッパや北アフリカに分布する *Tricholoma caligatum* (Viv.) Ricken と日本のマツタケが同一種であるとしたのはチェコスロバキアの Pilat & Usak (*Mushrooms and other fungi*, 1961.) であり、私は両地の生態を十分に比較した上でこれに追従したいと思う。したがってこの種はヨーロッパよりシベリア、北満を経て我国に分布することになり、別派は北アフリカのアトラス山脈よりヒマラヤ南部を経て中国南部と台湾に分布することになる。カナダに旅行する日本人がマツタケと称して珍重しているものは別種 *Tricholoma ponderosum* であり、その味や香りは全く同一である。ヨーロッパのマツタケの分布は南部を中心として僅少ではあるが、スカンジナビア半島まで延びている。しかし全体としては量は僅少であるという。東満 (現 中国東北部) でモンゴルナラの林中でマツタケを発見したのは私であるが、その後シベリア諸処から報告された。また台湾の玉山麓八通関では沢田さんが戦前に採り報告しているが、担子器上に 2 本の担子梗があるとの理由で 1 品種にして居た。しかし私が現地でも採集したものをしらべた結果、日本、台湾産ともに 4 本のものが多く、僅かに 2 本のものを混生していることを知った。数年前に中国南部の昆明附近からも発見され、またネパールのダウラギリ山麓のヒマラヤ五葉松林内は私の見たところ発生しそうに思われた。以上のようなマツタケの分布を大観すると、ヨーロッパと日本とはシベリアを通る路と、南方の北アフリカ、ネパール (?), 中国南部、台湾を経て日本へ至る路との南北の 2 本があるのである。斯様に興味ある分布を示すものは私の知る限りでは菌類以外他に無いようである。(国立科学博物館)